

校 是
自 覚
連 帯
創 造

平成30年度 北斗市立大野中学校スクールプラン

- 【学校教育目標】
- ① わかるまで探究する生徒
 - ② とともに励ましあう生徒
 - ③ きまりを大切にする生徒
 - ④ 進んでからだを鍛える生徒
 - ⑤ 美しいものに感動する生徒

- めざす生徒像
- ・目標に挑戦し続ける生徒
 - ・学び合い創造する生徒
 - ・自他を大切にし、鍛える生徒

- めざす学校像
- ・保護者・地域から信頼される学校
 - ・魅力的な学校（学習・運動）
 - ・人に優しく、規律ある学校（温とした空気）

- めざす教師像
- ・生徒の内面を理解できる教師
 - ・授業力の向上を図る教師
 - ・集団づくりのできる教師

【重点教育目標】 **向上心**をもち**自らを切りひらく活力に富んだ生徒**を育成できる**教育活動の創造**

【指導の重点】

- 豊かな心と健やかな体の育成
- ・認め合い高めあえる集団づくり
 - ・望ましい学校生活の確立
 - ・健康的な生活習慣の確立

- 確かな学力の向上
- ・学習意欲を高める授業づくり
 - ・学び合いが生まれる授業づくり
 - ・家庭学習の習慣化

- 地域に根ざし信頼される学校
- ・学校と家庭、地域、小中連携の強化
 - ・開かれた学校づくり
 - ・地域人材の活用

【具体的な取組】

- ◎学年、学級、部活動等全校で生徒主体に自治的活動を工夫する。
 - ・ボランティア活動の充実（リングプル回収活動やボランティアクラブの活動等）
 - ・生徒会、部活動の指導（自分から**相手に聞こえる声を出して目を合わせて会釈して挨拶**できる生徒 90%）
 - ・学校行事の充実（学校行事後の反省・分析・次年度への方向付け）
- ◎教育相談や各種調査を充実させ、生徒の悩みや友人関係を把握し、いじめや不登校の未然防止を図る。（攻めの生徒指導）
- ・組織的・機動的な教育相談及び生徒指導体制の確立（報告・連絡・相談・確認の徹底）
- ・**アセスの効果的活用（学級内での立ち位置）**
- ・休み時間や昼休みのふれあい活動の継続
- ◎道徳教育推進教師を中心とした計画的な道徳教育の推進。道徳の授業公開も含め、道徳授業力の向上。人権教育・情報モラル教育の取組の充実を努める。
 - ・道徳教育（特別な教科である道徳【道徳科】の授業の進め方や資料の共有、**別業の作成→授業公開**）
 - ・人権教育（いじめに関する授業の実施、生徒会によるいじめ撲滅運動展開、いじめアンケート実施の継続）
 - ・情報モラル教育（学校が楽しい率 54% →70%へ）
- ◎体育の授業や部活動、体育的行事を通して生徒の体力向上に努める。特に体力テストの結果改善に努める。→**全国平均**を目指す
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を共有し、体力の現状を把握し、日々の授業、部活動や体育的行事を通して体力向上を図る。（**体力向上プランの改訂・実施→保体部中心**）
 - ・養護教諭・栄養教諭と連携し、計画的な食育に取り組む。（早寝・早起き・朝ご飯の啓発で朝食摂取率 75% →85%へ）
- ◎保健安全、防災教育充実のため、警察や医療機関等と連携し、各教室を開催する。（薬物乱用防止教室、ケータイ教室等の開催）
- ◎部活動の週1日完全休養日確保の徹底

- ◎生徒の意欲を高め、授業に集中させるための授業形態の工夫と、**I C T機器の有効活用**を図る。
 - ・「**主体的・対話的で深い学び**」も含めた授業力向上への取組（全教師による研究授業公開・1週間の授業交流週間の公開の継続）
 - ・全国学力・学習状況調査結果分析からの授業改善（正答率の目標：国語A:78.8% →80%へ、国語B:75.0% →78%へ、数学A:65.8% →68%へ、数学B:47.3% →50%へ、下位25%の割合国語A:13.3% →20%未満へ、国語B:21.1% →20%未満へ、数学A:23.3% →23%未満へ、数学B:23.3% →23%未満）
 - ・校内研修の充実と**I C T機器の有効活用**（授業がよくわかる率 48% →70%以上へ）
- ◎体験的な学習、問題解決的な学習を通して思考力・判断力・表現力の向上を図る。（各学級の**スピーチ活動、議論する学活・道徳の工夫**）
 - ・テスト前・長期休業等学習サポートへの**全校的**な取組
 - ・チャレンジテストの活用（教育課程への位置付けとその結果分析）
 - ・朝読書の工夫・改善（読書が好きな率 60% →70%以上へ）
- ◎個に応じた指導の充実を図る。
 - ・家庭学習定着の取組（生活リズムチェックシート及び家庭学習強調週間の事後調査分析、4月中の**各教科年間シラバスの提示**で目安の学習時間 2時間確保 30% →70%以上へ）
 - ・数学での習熟度別学習への対応（各種テストでの学習内容定着度の把握）
 - ・朝学習の効果的活用（定期テストへの一部出題で生徒の集中力を向上）
 - ・特別支援教育（特別支援コーディネーター【**特支1、通常1**】と各懇談会、教育相談等での聞き取り）の充実



- ◎本校の学力や体力の状況を保護者に周知し、説明責任を果たす。
 - ・本校の学力・体力状況の結果説明（全国学力・学習状況調査や全国体力・運動能力調査後の結果分析文書の発行や家庭訪問・懇談会での結果説明）
 - ・学校だより、学級通信、各種文書や**H Pの定期的更新**等の情報発信（P T A三役への校内での取組の定期的発信）
 - ・危機管理の取組（災害発生時・生徒指導等）（年度末保護者アンケートや学校関係者評価の実施）
- ◎小中の連携を強化する。
 - ・小中の連携（小中**相互**の授業見学、交流、出前授業。**部活動体験と学校見学会・説明会の一本化**、学校関係者評価の実施）
 - ・長期休業中のボランティアサークルの生徒による小学校のサポート学習への派遣
 - ・年3回の小中合同の家庭学習強調週間の継続
 - ・夏季休業中の半日の小中連携研修会の実施
 - ・互助会レクの合同開催
- ◎保護者が授業参観や体育大会、文化祭などの学校行事に**よく来ると**生徒が答える割合を増やす。（目標 18% →55%以上へ）
 - ・参観日等授業公開及び実施方法の工夫・改善（参観日での授業アンケートの実施）→**全クラス2ケタの保護者の参加**
- ◎「**大野地区地域連携協議会**」を、**準コミュニティスクール化**する。（今年度事務局）
- ◎大野地区P T Aのミニバレーボール・ソフトボール大会への積極的な参加を奨励する。（部活動の大会等も考慮しながら）
- ◎総合的な学習の時間等において地域の人材、素材を積極的に活用する。
 - ・キャリア教育（職業調べ、職場体験学習、地域研修）の実施
- ◎「旗の波作戦」「ラジオ体操コンクール」等の地域行事に参加する。

